

東大生の急増。その背景には何があるのか。北海道大学教授で、現代中国研究が専門の城山英巳氏は、「中国人のブランド

ざるを得ません」  
山内氏は、国際化の流れは否定しないが、バランスが重要だと提言する。  
「私が在職中の十年ほど前から、理系の大学院で中国人の姿を多く見るようになってきました。もちろん、『日本で学びたい』という人たちの自由は尊重すべきだと思います。一方で東大には国から多額のお金が入っていることを忘れてはいけません。たとえば、今年度は約八百億円が投入されている。これは国民の税金が原資です。あえて厳しい言葉を使うなら、日本人のリソースを特定国の学生に奪われている」といっても過言ではないでしょう。中国という国が軍事大国であり、日本の脅威となっていることを踏まえると、制限なく受け入れ続けるのは国民にとって危ないことと言えます」

日本人が知らない中国人東大生の急増。その背景には何があるのか。北海道大学教授で、現代中国研究が専門の城山英巳氏は、「中国人のブランド

志向が、日本のトップである東大を目指す理由だ」としつつ、三つの国内事情が背景にあると分析する。  
「まず、中国では一流大学を卒業しても就職できない若者が国内に溢れかえっています。二つ目に習近平体制で強化された言論統制の影響です。自由に自分の好きな学問をすることが困難になってきていることもある」  
さらに、二〇二〇年から始まったゼロコロナ政策が

### 中学受験のため日本に移住する

では、実際に東大で学ぶ中国人はどのように考えているのだろうか。二年前に来日した東大生の李さん(仮名)に聞いた。  
「両親は共産党員なのですが、私はその共産党の教育方針に子供のころから違和感を持っていました。習うのは『共産党が政権を取ったことで豊かになった』とか『人民解放軍は強い』とか、そういうことばかり。高校生の際に世界史の授業で、初めてイギリスや日本には『議会』があり、みんな

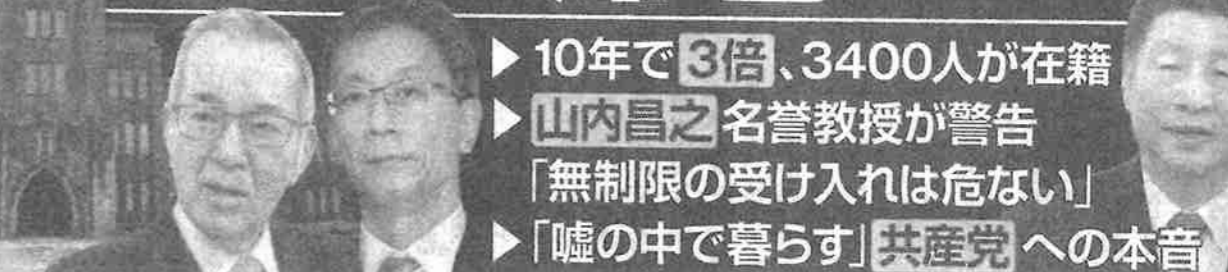
なで決めることができるようになりました。中国人は共産党の作った嘘の中で、生活していると思います」  
李さんは、来日後に日本語学校に通って日本語を習得。東大を受験して合格した。城山氏は、近年の東大などへ入学する若者の傾向についてこう解説する。  
「かつては、中国の大学で日本語を学んでから、来日するケースが多かった。しかし、日本語を学んでいなくても、とりあえずは日本に渡って日本語を勉強し

て、大学を受験するというのが増えているようです。日本企業も、日本の大学を卒業した中国人人材を求めていますので、東大卒であれば引く手あまたです。さらに、この数年は日本で暮らす中国人の子弟が、名門中学や高校を受験して、東大生を目指す。受験の低年齢化も起きています」  
その低年齢化を肌で感じているのは、都内で中国人向けに不動産売買を仲介する会社Worth Landの杉原尋海氏だ。  
「毎月約三十件の問い合わせがあるうち九割ぐらいが中国本土の方です。日本で中学受験をするため、移住したいと話す方が急増して

います。『子供の将来のために東大の近くのマンションを買いたい』とか『文京区に住みたい』と、細かく希望をおっしゃる。中国では、日本の中学や高校のお薦めランキングなどが、共有されているようです」  
杉原氏によると、都内では、港区、中央区、千代田区、新宿区、文京区などだ。「欧米の物件も検討したが、治安もよく教育環境もよい日本を選んだ」という人が多い印象です(同前)  
その傾向を表すように、首都圏では中国人の子供向けの学習塾が、増加している。その一つを運営する胡さん(仮名)に話を聞いた。

## 連続キャンペーン③ 中国にNOと言おう

# 中国人留学生在が東大を席卷している



▶10年で3倍、3400人が在籍  
▶山内昌之名誉教授が警告「無制限の受け入れは危ない」  
▶「嘘の中で暮らす」共産党への本音

山内名誉教授 東大の藤井輝夫総長 留体制で激変

日系企業に勤める邦人がスパイ容疑で起訴され、中国軍機による史上初の領空侵犯が起きた。そして、ついに日本人学校の児童が襲われ死亡する痛ましい事件が発生するなど、日中関係は今、危機的な状況に陥っている。  
だが、中国人の日本への流入は増加の一途をたどっている。  
出入国在留管理庁の統計によれば、在留資格を持つ中国人は二〇二三年十二月末時点で、前年末から六万人増え八十二万人に達した。コロナ以前の二〇一九年を超えて過去最高となったのだ。  
日本社会でますます存在感を拡大する中国人。今回は教育現場における実態をレポートする。

は約一千万人、大学院生は約二万三千五百人で、合計約二万七千五百人が在籍しています。この中で、中国籍の留学生は三千三百九十六人。つまり在学している人の一二％超が中国人です。また、この数字とは別に日本の高校などを卒業し、留学生枠に入っていない中国人もいるので、実際はさらに多いでしょう」  
東大が毎年発表する中国留学生の数を比較すると、この十年で急激に増加していることがわかる。二〇一四年五月には、千三百三十六人だったものが、二〇二四年の五月時点で三千三百九十六人と約三倍に。さらに、外国人留学生全体の中で、中国人の占める割合は、二〇一四年五月には三九・五％だったものが、二〇二四年五月には、六六・五％に達しているのだ。  
「中国で高い人気と知名度

を誇る早稲田大学も、東大とほぼ同数の約三千三百人の中国人留学生を抱えています。ただし、学部生と院生の合計は東大の倍近い四万八千人で、比率は七％ほど。東大では、学部や院のゼミになると、日本人がゼロで中国人ばかりというところも出てきている(同前)  
留学生全体の数が増加していることは、国際化していることの証しで、歓迎されるべき点もある。一方で、特定国の学生が増え続けることに、問題はないのか。この現状に警鐘を鳴らすのが、東京大学名誉教授の山内昌之氏である。  
「東京大学は国の最先端の研究機関であり、国の安全保障に関わる研究もおこなわれています。日本を取り巻く安全保障の問題から考えると、中国人が東大を席卷し、ここまで増えているというのはリスクを懸念せ

日本の最高学府・東大が、中国化している。今や在学生の一二％超が中国人に。なぜ、このような事態に至ったのか。取材を進めると、見えて来たのは中国の景気低迷や過熱する受験戦争、そして共産党体制への不満だった。